校長室から **ひがしなら通心**

（R元年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．１６

令和元年６月１７日（月）発行

梅雨（つゆ）を楽しく、安全に！

６月頃の良く雨が降る季節を梅雨（つゆ）といいます。昨年は、６／６に梅雨に入りましたが、今年はいつなのでしょうね。運動好きな人にとっては、イヤな雨ですが、お米を作る農家の人にとっては、大切な雨です。農家の人は、秋の収穫を楽しみに、これからいろいろな世話をされます。みなさんも苗が大きくなっていくのを観察してみてください。決してあぜを荒らさないよう、田んぼに物を投げ入れないよう注意しましょう。

雨の日は気分もふさぎ込みがちですが、雨が降るから晴れの日が楽しみなのかもしれません。雨の日は、校舎内で過ごすことが多くなります。廊下・階段の歩行には特に気をつけましょう。走りまわったら、すべってこけて、大ケガをしますよ。廊下にも交通ルールがあります。

ハインリッヒの法則というのがあります。「１件の大きな事故の裏には、２９件の小さな事故、そして３００件のヒヤリ・ハット（ヒヤリとしたりハッとしたりすること）がある」と。ぶつかってかすり傷で済んだとしても、それは、たまたま。これくらいなら大丈夫と、同じようなことを繰り返していれば、いつか必ず大きな事故に結びつくということです。

学校朝会でも聞いたと思いますが、今月の生活目標は、「雨の日の遊びを工夫しよう」です。

令を正す、場を浄める、時を守る

前号で教育哲学者の森信三先生の言葉「令を正す、場を浄める、時を守る」を紹介しました。これは集団を作る三原則として提唱された言葉です。

「令を正す」とは、あいさつをすること、返事をすることです。「場を浄める」とは、掃除をすること。「時を守る」とは、時間を守ることです。一例を挙げれば、みなさんは朝、遅刻をせず登校し、「おはようございます」とあいさつし、毎日お昼の掃除に取組んでいますか。今一度、この言葉の意味を考えてみましょう。

「令を正す」、あいさつをすることは、心を開いて相手に迫ることです。ですから、あいさつをすることで人間関係が良くなってきます。返事も同じです。呼ばれたら大きな声で「ハイ！」と返事をする。呼ばれても返事をしなければどうなるでしょうか。きっと人間関係は悪くなっていきます。

「場を浄める」、掃除をすることで五つの良いことがあります。「気づく人になれる」「心を磨く」「謙虚になれる」「感動の心を育む」「感謝の心が芽生える」。掃除をすることは、自分の心を磨き、広く、深く、豊かにしていくことにつながります。

「時を守る」、時間を守ることは、相手を尊重することであり、それによって自分自身の信用を積み重ねていくことになります。

つまり、「令を正す、場を浄める、時を守る」とは、単に遅刻しないとか、清潔にするとかいうことだけでなく、人を大切にし、自分を高め、関係をよくしていくことなのです。

みなさんは毎日、どのような気持ちで掃除していますか？自分の心と向き合い、一心に磨くことができていますか。言われるからするのではなく、表面をまねるだけでなく、そこにある本当の意味を考え、自ら動くことが大切です。みなさん全員が自覚を持って、この三つを守ることが、東奈良小学校という集団としての力を高めることになるのですよ。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール１７　整理整頓（せいりせいとん）しよう

必要（ひつよう）なものがすぐに取り出せるように、机の中はきれいに整理しておこう。

●必要のないものは処分し、何をどこに入れるかを決めておけば、自分が楽になるし、毎日を気持ちよく過ごせる。将来、きみが仕事をするときも役立つだろう。

ひ	とつにみんなでまとまろう！	あ	いさつができる子
が	くりょくと体力をのばそう！	い	っしょうけんめい勉強する子
し	っかりせいかつしよう！	う	んどうが好きな子
な	かよく友だちとすごそう！	え	がおでやさしい子
ら	んらん夢に向かう東奈良っ子！	お	そうじをがんばる子